

栃木県埋蔵文化財 センターだより

発行 平成22年6月10日
栃木県教育委員会
宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2010
6月
やま
かい
どう



CONTENTS

- 平成21年度栃木県内の発掘調査情報
- ・市町教育委員会が実施した発掘調査から 下上遺跡(宇都宮市) 上神主・茂原官衙遺跡(宇都宮市・上三川町)
国指定史跡那須官衙遺跡周辺(那珂川町) 烏山城跡(那須烏山市) 唐沢山城跡(佐野市) 史跡榊崎寺跡(足利市)
- ・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から 吾妻古墳(壬生町・栃木市) 平出城跡(宇都宮市) ○ロビー展示から
- 平成21年度栃木県内発掘調査一覧 ○平成21年度栃木県発掘調査動向 ○「巡回展 栃木の遺跡」—最近の発掘調査成果から—

■平成21年度栃木県内の発掘調査情報

市町教育委員会が実施した発掘調査から

1. 下上遺跡の発掘調査(宇都宮市)

下上遺跡は、宇都宮市の南東部、鬼怒川の左岸に南北に連なる台地上に位置します。平成16年度に埋蔵文化財センターで一部発掘調査が行われ、縄文時代中期から後期にかけての遺跡であることが確認されています。

平成21年度から市道改良工事に伴い、宇都宮市教育委員会で調査を実施しました。平成21年度の西調査区の調査では、^{たてあな}堅穴住居跡40軒、^{どこう}土坑550基以上の遺構が確認され、大規模な集落跡であることがわかりました。

遺物は土錘、土製円盤、石鏃、石錐、石錘、石棒、石皿、^{すりいし}磨石、^{だせいせきふ}打製石斧、^{ませいせきふ}磨製石斧などが多く出土しているほか、^{ちゅうこうどき}注口土器や土偶、ミニチュア土器など特徴ある遺物も出土しています。土器は称名寺式や堀之内式が多く出土していることから、縄文時代後期前葉に最盛期を迎えた集落と考えられます。敷石を伴った住居跡も確認されており、東調査区とともに平成22年度に詳細な調査を実施する予定です。

また、古墳時代後期の^{かめ}堅穴住居跡も1軒確認され、土師器の甕などが出土しています。

(宇都宮市教育委員会 028-632-2764)



称名寺式土器



重なり合った堅穴住居跡の完掘状況(北から)



土偶及びミニチュア土器

2. 上神主・茂原官衙遺跡の発掘調査（宇都宮市・上三川町）

上神主・茂原官衙遺跡は、宇都宮市と上三川町に所在する奈良時代を中心とした河内郡役所と推定される遺跡です。これまでの発掘調査で南北約 390 m・東西約 250 m に及ぶ範囲から、90 棟を超える多数の建物跡が確認されました。

平成 21 年度の調査では、唯一の瓦葺建物跡である SB01 において、柱位置や基壇の詳細が確認されたほか、敷石遺構の規模がわかるなどの成果があがりました。人名文字瓦が出土することから特別な位置づけが考えられていましたが、敷石遺構を伴うことで、重要性が改めて認識できました。

多くの建物が並ぶ正倉域では、東山道に接する東側の斜面近くで、2 棟の建物が確認されています。このことから当時の河内郡役所が、東山道を往来する人々を強く意識していたことが分かり、東山道との結びつきの強さを示すものと思われます。これによって、正倉域にはたくさんの建物が並んでいることが改めてわかりましたが、まだ未調査の部分に何棟の建物が眠っているか興味が持たれます。（宇都宮市教育委員会 028-656-2764）
（上三川町教育委員会 0285-56-9159）



瓦葺建物跡（SB01）全景



中央部敷石遺構確認状況（西から）

3. 国指定史跡那須官衙遺跡周辺の発掘調査（那珂川町）

国指定史跡である那須官衙遺跡周辺は後期古墳の梅曾大塚古墳、新屋敷古墳、観音堂横穴や白鳳寺院の浄法寺廃寺、中世城館跡である浄法寺館跡があり、古墳時代から古代、そして中世へと連綿と継続する地域です。

那珂川町教育委員会では、平成 17 年から国指定史跡である那須官衙遺跡を含め、これらの地域全体の範囲や性格等を確認するため詳細調査を実施しています。

平成 21 年度は那須官衙遺跡の南に第 24、25 次調査区を設定し、発掘調査を実施しました。両調査区からは幅 5 m、深さ 1.8 m と大規模な溝の北西コーナーが確認され、溝の規模は那須官衙遺跡の正倉ブロックの区画溝をはるかにしのぐものでした。今まで知られている官衙遺跡の南辺からさらに南に 100 m の位置で確認され、官衙を構成する新たな区画である可能性があります。

今回確認された北西コーナー付近の北側で確認された竪穴住居跡やその周辺からは、7 世紀代にさかのぼる須恵器蓋や礎が出土し、古代那須郡役所造営を検討するうえで重要な発見となりました。

（那珂川町教育委員会 0287-92-2897）



新たに確認された区画溝の北西コーナー（東から）



竪穴住居跡遺物出土状況（西から）

4. 烏山城跡の発掘調査（那須烏山市）

烏山城は、烏山市街地北西に連なる丘陵の頂上部（標高 206 m）に位置する連郭式の山城で、応永 24 年（1417）に那須氏の一族沢村五郎資重により築かれたとされています。東西約 350 m、南北約 600 m の範囲に、五城三郭（古本丸・本丸・中城・西城・北城・常盤曲輪・若狭曲輪・大野曲輪）と呼ばれる曲輪群が良好な状態で現存しています。

平成 21 年度は、主郭部（古本丸）の調査を行いました。曲輪内部に長さ約 70 m、幅 1 m の試掘トレンチを十字状に設定して土の堆積状況を調べました。

その結果、曲輪を構築する際、丘陵頂上面を岩盤層まで削平して平場を作り、その上に小礫やロームなどで整地を行っていることが確認されました。また、現在地表に残る土塁や突出部（横矢掛り）などの遺構は、旧地形の上に人為的に盛土を行って築かれているものと分かりました。大規模な土木工事（普請）が行われた時期は、出土遺物などから戦国～近世初期頃と推測されますが、戦乱の拡大に伴い小さな城から大きな城に発展していった様子を見ることができます。

（那須烏山市教育委員会 0287-88-6223）



土師質土器出土状況



古本丸東側突出部分断ち割り状況（南から）

5. 唐沢山城跡の発掘調査（佐野市）

唐沢山城跡は戦国時代から近世初頭にかけての佐野氏の居城です。標高 242 m の本丸を中心とした山頂部に遺構が広がり、東関東では数少ない堅牢な高石垣が残るなど、関東七名城の一つに数えられています。

平成 19 年から保存整備事業に向けての調査を開始し、平成 20 年からは 5 カ年の国庫補助事業として縄張調査、地形測量、遺構確認調査、史・資料調査を進め、多角的なアプローチにより、平成 25 年度に国指定史跡の申請を計画することになりました。

平成 21 年度の遺構確認調査では、西麓の根小屋地区でトレンチ調査を実施しました。隼人屋敷では曲輪西斜面部を調査し、平成 20 年度に確認された石垣周辺の拡張等を行いました。その結果、石垣底面部の造成と、石垣の南側で石垣に直行するように高さ 1 m の石積みを確認されました。また、隼人屋敷からは陶磁器以外に 2 カ年で 9,000 点を超えるかわらけが出土しています。家中屋敷の調査では、石組溝 2 条を確認しました。御台所では石列等を確認しました。根小屋地区全体が比較的良好な状態で保存されていますが、遺構の確認調査も少しずつ進めています。

（佐野市教育委員会 0283-86-3495）



隼人屋敷西斜面石積み状況



家中屋敷調査状況（石組溝）

6. 史跡樺崎寺跡の発掘調査（足利市）

史跡樺崎寺跡は中世を代表する豪族武士団・足利氏の氏寺跡・廟所跡で、足利市北東の山間地、樺崎の谷に位置します。樺崎寺は文治5年（1189）源姓足利氏二代目の足利義兼が奥州合戦の戦勝祈願のために創建したとされ、鎌倉・南北朝・室町時代を通して発展します。

昭和59年度より行われた発掘調査では、八幡山山麓の堂塔跡や浄土庭園跡などが良好な状態で確認され、平成13年1月に国の史跡に指定されました。平成21年度の発掘調査では、園池北部東岸において室町時代の岬が新たに確認されました。この岬は正面に多宝塔を臨む位置につくられていることから、多宝塔が建てられた鎌倉時代より岬状を呈し、その後の大きな改修のたびに西側へ伸びていったものと思われます。池の中からは瓦、かわらけ、陶磁器類のほか、平成19年度の調査でも出土した巡礼札「坂東三十三所・・・」が出土しています。

今回の調査で、室町時代における園池北東部の汀線は、東導水口より取り込んだ水を絞り込むように汀線が岬状に池側に大きく張り出し、全体にS字状を呈すかなり出入りのある形状になっていることがわかりました。

（足利市教育委員会 0284-20-2230）



史跡樺崎寺跡遠景（東上空より）



園池北部東岸の岬の護岸（南西から）

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

7. 吾妻古墳の発掘調査（壬生町・栃木市）

墳丘や前方部の横穴式石室のかたちと範囲の確認をするため、調査を行いました。埴輪の破片が墳丘第二段の裾から出土しましたが、すべて転がり落ちたものでした。もともと墳丘を取り囲むように並べてあったと考えられますが、古墳の大きさの割には量が少ないようです。

前方部の横穴式石室は、玄室部分が閃緑岩の巨大な一枚石を組み合わせて作られており、奥行き2.40m、幅1.70mで、赤く塗られています。完成すると見えなくなってしまう部分まで塗られており、石室を作っている途中で色を塗ったことを示しています。このことから、石室作りが単なる工事ではなく、儀式の一部であることが想定できます。玄室の前からは、今回の調査で初めて、川原石を積んだ壁の存在が確認され、石室がさらに南につづいていることがわかりました。床の上から甲の部品（掛甲の小札）、金銅板破片、ガラス玉が出土しました。甲は鉄でできており、持ち主のステータスを示す貴重品です。吾妻古墳は、築造された6世紀後半では、全国で最大級の古墳であり、それにふさわしいものが納められていたと想像されます。



墳丘埴輪出土状態（西から）



前方部横穴式石室 玄室部分（南から）

8. 平出城跡の発掘調査（宇都宮市）

平出城跡は、伝承によれば承元3年（1209）、宇都宮朝綱の家臣、鈴木八郎重定が築いたとされる城館です。

この地域には、「御城」「中城」「北（城）」「東門」「馬場」「立堀」「宿」などの屋号を持つ家のあることが知られていましたが、城館の歴史や規模は不明でした。

調査の結果、平出城跡の東を画するとみられる外堀は、現在の用水堀と同じ位置にあることが判明しました。今はなくなった西の用水堀も同様であったとすると、東西約350mの城館であったと考えられます。

また、東西方向の堀、遺構のほとんど無い広場、南北に長い掘立柱建物跡、住まい・作業場などの説がある方形竪穴、貯蔵庫や埋葬関係施設との説がある地下式坑なども見つかりました。これらの状況から、「東門」付近の堀の内郭は馬揃などを行う広場があり、その南は土墨と堀で区画された馬場のような施設のあったことが分かりました。出土した主な遺物は、縄文土器片・土師器片・中国から輸入された青磁・白磁の破片、土鍋（ほうろく）である内耳土器片・かわらけ・砥石・土鈴・硯・銭・石臼・五輪塔の一部などで、15～16世紀代のものが中心です。



東外堀調査状況（北から）



方形竪穴遺構
（奥に土鍋が出土：北東から）

ロビー展示から

当センターが保管する遺物について、栃木県総合文化センターと埋蔵文化財センターのロビーで展示を行っています。近くにおいでの際はお立ち寄り下さい。

奈良時代の家から出土した古墳時代の鏡

この鏡は、北関東自動車道の建設に先立つ発掘調査で、西赤堀遺跡（河内郡上三川町西汗所在）の大型竪穴住居跡（一辺7.5m）の西壁際から出土したものです。

「変形蕨手文鏡」と呼称される直径8.6cmの青銅製の鏡で、古墳時代（6世紀中頃）に製作されたものです。古墳時代の鏡は、単に顔や形を映すものではなく、権力の証として有力者が好んでもち、死者と供に古墳に副葬される例が多く、竪穴住居跡からの出土は極めて珍しい例です。一方、この鏡が出土した住居跡は奈良時代（8世紀中頃）のもので、地名または人名を示す「財部□」の墨書土器をはじめ土師器の坏や須恵器の壺・坏・蓋などの土器、鎌・鉄鉗・鍬・刀子などの鉄製品などが出土しています。

つまり、古墳時代の鏡が奈良時代の住居跡から出土したということになります。約200年も古い鏡がどうしてこの住居跡から出土したかはよくわかりませんが、代々伝わったもの、周辺の古墳から持ち出してきたものなどが考えられます。※鉄鉗・・・鍛冶道具



変形蕨手文鏡



栃木県総合文化センターロビー展示

平成 21 年度栃木県内発掘調査一覧

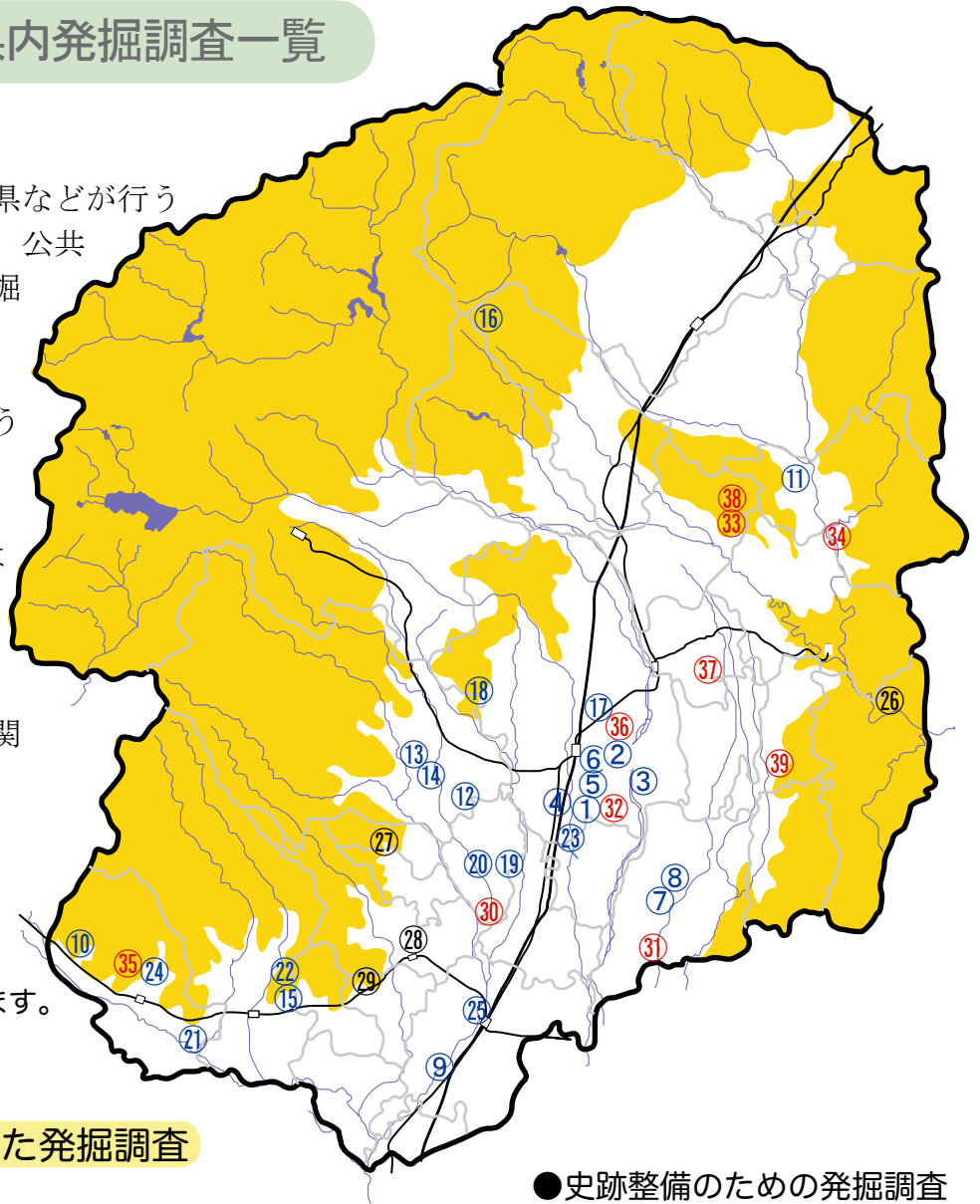
埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路整備や圃場整備事業などの、公共事業に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は遺跡の内容を明らかにするための発掘調査や、史跡整備のための発掘調査も行っています。

県・市町教育委員会以外の機関による、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。

右図の番号は下表の番号に一致します。



◎市町教育委員会が実施した発掘調査

●記録保存のための発掘調査

| 番号 | 遺跡名 | 市町名 | 主な時代 |
|----|-----------|------|-------|
| ① | 西刑部西原遺跡 | 宇都宮市 | 古墳ほか |
| ② | 免の内台古墳 | 宇都宮市 | 古墳ほか |
| ③ | 下上遺跡 | 宇都宮市 | 縄文ほか |
| ④ | 雀宮東浦遺跡 | 宇都宮市 | 奈良～中世 |
| ⑤ | さるやま城古墳群 | 宇都宮市 | 古墳 |
| ⑥ | 東原古墳群 | 宇都宮市 | 古墳 |
| ⑦ | 御前城跡 | 真岡市 | 中世・近世 |
| ⑧ | 真岡城跡 | 真岡市 | 中世 |
| ⑨ | 間々田牧の内北遺跡 | 小山市 | 奈良ほか |
| ⑩ | 熊野遺跡 | 足利市 | 奈良ほか |
| ⑪ | 那須官衙遺跡 | 那珂川町 | 古代 |
| ⑫ | 上石川大塚古墳群 | 鹿沼市 | 古墳 |
| ⑬ | 段ノ浦古墳群 | 鹿沼市 | 古墳 |
| ⑭ | 竜地遺跡 | 鹿沼市 | 古墳～平安 |
| ⑮ | 新町遺跡 | 佐野市 | 奈良～平安 |

●史跡整備のための発掘調査

| 番号 | 遺跡名 | 市町名 | 主な時代 |
|----|------------|--------------|-------|
| ⑳ | 上神主・茂原官衙遺跡 | 宇都宮市 上三川町 | 奈良～平安 |
| ㉑ | 樺崎寺跡 | 足利市 | 中世 |
| ㉒ | 祇園城跡 | 小山市 | 中世 |

●遺跡の内容を明らかにするための発掘調査

| 番号 | 遺跡名 | 市町村 | 主な時代 |
|----|-------------------|------|------|
| ⑯ | 高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区 | 矢板市 | 旧石器 |
| ⑰ | 岡本城跡 | 宇都宮市 | 中世 |
| ⑱ | 多気城跡 | 宇都宮市 | 中世 |
| ㉓ | 車塚古墳 | 壬生町 | 古墳 |
| ㉔ | 牛塚古墳 | 壬生町 | 古墳 |
| ㉕ | 奥戸遺跡 | 足利市 | 縄文 |
| ㉖ | 唐沢山城跡 | 佐野市 | 中世 |

(本調査を実施した遺跡の一覧。確認調査は除外した。)

■平成 21 年度栃木県発掘調査動向

本県発掘調査の届け・通知の件数は平成 17 年度から増加していましたが、平成 21 年度は減少に転じました。埋蔵文化財センターでも、国等から委託され実施してきた大規模開発に伴う発掘調査はほぼ終了し、県の土地基盤整備事業と道路建設に伴う発掘調査が中心でした。さくら市小鍋内Ⅱ遺跡、市貝町北ノ内遺跡、那珂川町舟場平遺跡、宇都宮市西刑部西原遺跡では竪穴住居跡など古墳時代から平安時代の集落跡が確認されています。3 年目となる吾妻古墳の調査では、石室内部の調査が実施され石室の構造などが明らかとなりました。宇都宮市平出城跡の調査では、城の東側を区画する大溝や東門付近の内郭を区画する溝と広場や馬場を想定される施設があったことも明らかとなりました。

つぎに、市町等が実施した発掘調査を時代順に見ていきます。旧石器時代では、矢板市高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区の調査が継続して行われました。縄文時代では、山頂部から縄文時代早期の集石遺構や東北や中部地方の文様の土器が出土した茂木町大峰山遺跡。渡良瀬川河川敷の中期の集落である足利市奥戸遺跡、後期の敷石住居跡をはじめたくさんの竪穴住居跡や土坑が発見された宇都宮市下上遺跡の調査が行われました。古墳時代では、終末期の古墳では全国でも珍しい二重周溝が確認された壬生町車塚古墳のほか、西方町稲荷山古墳群、栃木市城内町古墳群、栃木市マガキ 1 号墳などの学術調査が実施されました。集落では宇都宮市西刑部西原遺跡、鹿沼市竜地遺跡などで古墳～平安時代にわたる集落跡が調査されています。古代では、上三川町と宇都宮市の国指定史跡上神主・茂原官衙遺跡で人名瓦がたくさん出土した瓦葺建物跡の柱の位置や基壇の確認調査が実施され、幅 1 m ほどの建物を囲むような敷石遺構が確認されました。また、那珂川町那須官衙遺跡では、これまで未調査だった南側から、これまでの正倉など 4 ブロックの区画溝をはるかにしのぐ幅 5 m の溝が発見され、新たな区画溝の可能性が指摘されています。中・近世では、城館跡の調査が多く実施されました。宇都宮市岡本城跡・多気城跡、那須烏山市烏山城跡などでは現況把握や範囲確認のための調査が実施されました。佐野市唐沢山城跡では、隼人屋敷で石垣に直交する石積みや家中屋敷では石組溝、御台所の石列などが発見され、城の構造が明らかになりつつあります。小山市祇園城跡では小山御殿の一部と予想される礎石建物跡が確認されました。また、足利市樺崎寺跡では、園池東岸で多宝塔を臨むようなところに岬が新たに確認され、今後復元整備が進められる予定です。

(埋蔵文化財センター調査部長 初山 孝行)

◎その他の機関が実施した遺跡の内容を明らかにするための発掘調査

| 番号 | 遺跡名 | 市町名 | 主な時代 |
|----|----------|-------------|------|
| ②⑥ | 大峰山遺跡 | 茂木町 | 縄文 |
| | 調査主体者 | 明治大学 | |
| ②⑦ | 稲荷山古墳群 | 西方町 | 古墳 |
| | 調査主体者 | 西方町史編纂室 | |
| ②⑧ | 城内町古墳群 | 栃木市 | 古墳 |
| | 調査主体者 | 國學院大學栃木短期大学 | |
| ②⑨ | マガキ 1 号墳 | 栃木市(旧大平町) | 古墳 |
| | 調査主体者 | 山ノ井清人 | |

◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

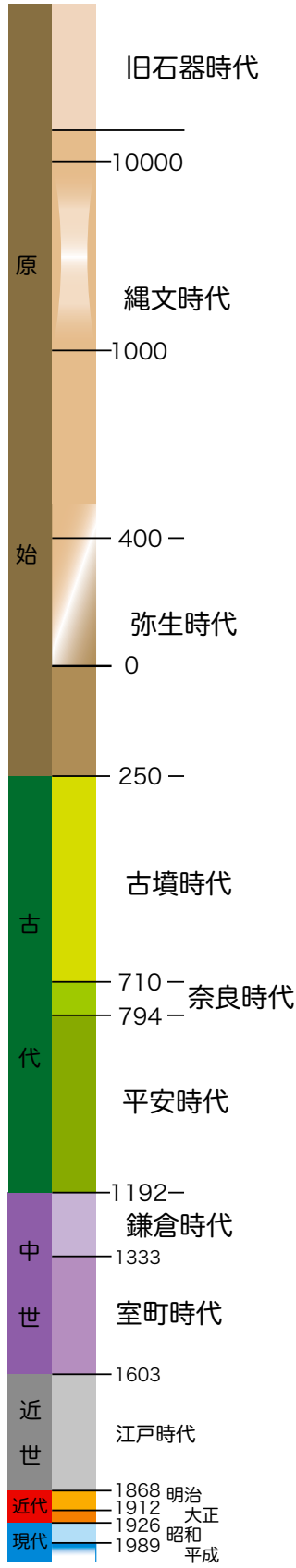
| 番号 | 遺跡名 | 市町名 | 主な時代 |
|----|-----------------------|------------|----------|
| ③⑩ | 吾妻古墳 | 栃木市 壬生町 | 古墳 |
| ③① | 圃場整備地内遺跡 (久下田中遺跡等) | 真岡市 | 古墳～平安 |
| ③② | 西刑部西原遺跡 | 宇都宮市 | 古墳～平安 |
| ③③ | 上金枝Ⅰ・Ⅱ遺跡 | さくら市 | 古墳～中世 |
| ③④ | 舟場平遺跡 | 那珂川町 | 古墳～中世 |
| ③⑤ | 田島持舟遺跡 | 足利町 | 弥生～中世 |
| ③⑥ | 平出城跡 | 宇都宮市 | 中世 |
| ③⑦ | 薬師堂遺跡 | 高根沢町 | 中世～近世 |
| ③⑧ | 小鍋内Ⅱ遺跡 | さくら市 | 縄文・古墳～中世 |
| ③⑨ | 北ノ内遺跡 | 市貝町 | 縄文・古墳～中世 |

■巡回展 栃木の遺跡 —最近の発掘調査成果から—

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されております。その成果をできるだけ早く、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展 栃木の遺跡」を開催しております。今年も県南・県央・県北の県立3施設において、下記の日程で開催します。ぜひ、ご来場ください。

展示遺跡と主な展示資料

※都合により展示資料が変更になることがあります。



縄文時代

- 奥戸遺跡 (足利市) 深鉢 (食べ物を煮炊きするなべ)
磨石・多孔石 (木の実を磨りつぶす道具)
- 下上遺跡 (宇都宮市) 深鉢 (食べ物を煮炊きするなべ)
土偶・石棒・ミニチュア土器 (まじないの道具)
- 下西原遺跡 (宇都宮市) 深鉢 (食べ物を煮炊きするなべ)

古墳時代

- 寺野東遺跡 (小山市) 甕 (食べ物を煮炊きするなべ)
高坏 (食べ物を盛るうつわ)
- 西刑部西原遺跡 (宇都宮市) 甕 (食べ物を煮炊きするなべ)
- 小内鍋Ⅱ遺跡 (さくら市) 甕 (食べ物を煮炊きするなべ) や坏 (食器)
- 北ノ内遺跡 (市貝町) 碗 (食器)・鉄鏃 (鉄製の矢じり)
- 吾妻古墳 (壬生町・栃木市) 円筒・鞆・家 (古墳の周りに立てられた埴輪)
- 藤井 39 号墳 (壬生町) 耳環 (死者の装身具)・埴輪

奈良・平安時代

- 森後遺跡 (さくら市) 坏 (文字が描かれたうつわ)
- 鳥井戸遺跡 (宇都宮市) 甕 (食べ物を煮炊きするなべ)
杯 (食器類)・基石

平安時代・中近世

- 西物井遺跡 (真岡市) 【平安時代】杯 (食器類)・【中近世】下駄・木槌

中世

- 西根 2 遺跡 (岩舟町) 漆碗・蓋 (漆塗りのうつわ)
- 下陰遺跡 (真岡市) 常滑大甕 (水や酒を貯蔵した甕)
陶磁器 (中国から輸入された陶磁器)

奈良時代

- 傾城塚遺跡 (佐野市) 壁に掛けられた神仏像

平安時代

- 烏山城跡 (那須烏山市) かわらけ (素焼きの坏)
- 祇園城跡 (小山市) 陶磁器 (中国から輸入された陶磁器)
かわらけ・陶器 (食器類)・硯・鉄砲玉・銅銭

開催館のご案内

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

平成 22 年 4 月 24 日(土)～6 月 13 日(日)
下野市国分寺 993 TEL 0285-44-5049

栃木県立博物館

平成 22 年 7 月 17 日(土)～9 月 12 日(日)
宇都宮市睦町 2-2 TEL 028-634-1311

○展示解説 8 月 21 日
14:30～15:30 定員 30 名

利用案内 (3 館共通)

開館時間 9:30～17:00
(入館は 16:30 まで)
休館日 月曜日(祝日・休日を除く)
祝日・振替休日の翌日

栃木県立なす風土記の丘資料館

平成 23 年 2 月 5 日(土)～3 月 21 日(月)
展示会場は小川館になります
那珂川町小川 3789 TEL 0287-96-3366
○遺跡発表会・風土記の丘成果発表会
2 月 20 日(日) 10:00～ 定員 60 名

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及事業担当まで TEL 0285-44-8441

